

出席停止となる感染症

- ・以下に記載した感染症がある場合、感染拡大を防ぐため、**学校保健安全法**に基づき**出席停止**となります。
- ・病状により学校医、その他の医師が感染の恐れがないと認められた等の場合はこの限りではありません。
- ・**出席停止期間が定められていない感染症**に関しては、病院を受診した際、医師にいつから登校が可能か確認してください。出席停止期間が定められていない感染症の場合は、登校には医師による**診断書**（登校可能と記されたもの）又は**治癒証明書**が必要です。

※**新型コロナウイルス感染症**では、（医師の診断がなくても）**検査キット・検査センター等**を利用して**陽性であれば、出席停止（公認欠席）を認めることとします**。

ただし、検査キットの場合は、検査キットと学生証が一緒に映るように写真を撮影してきてください（撮影した日付も確認します）。検査センターを利用する場合は、氏名・検査日等が記載されている書類・又はメールなどを提示してください。どちらの場合も、陽性であることが確認できれば診断書は不要とします。

○**第一種感染症**（感染症名は下表の後に記載しています）・・・日本では極めて稀であり、重篤かつ致死性が高い感染症です。海外からもたらされる可能性は否定できませんが、1999年から2021年の間、我が国での発症例は確認されていません（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/ydata/11528-report-ja2021-10.html>）。出席停止期間は「**治癒するまで**」です。

○**第二種感染症**・・・重要であり、現在我が国でも見られる感染症です。

感染症名	出席停止期間
新型コロナウイルス感染症（濃厚接触者は含まない）	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで ※無症状者は検体採取日から5日経過するまで
インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで
麻疹（はしか）	発疹に伴う発熱が解熱した3日を経過するまで
百日咳	特有な咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌物質製剤による治療が終了するまで
流行性耳下腺（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
風疹（三日はしか）	発疹が消失するまで
咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退した後、2日間を過ぎるまで
水痘（水ぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
結核	医師により伝染のおそれなくなったと判断されるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	

★出席停止日数の数え方は、症状が見られた日は算定せず、その翌日を第1日とします。

★新型コロナウイルス感染症における「症状が軽快」とは、解熱剤を使用せずに解熱し、かつ症状（呼吸器症状など）が明らかに改善傾向にあることを指します。

★インフルエンザにおける「発症した後5日」の場合の「発症」とは、「発熱」が現れた場合を指します。

○第三種感染症

感染症名	出席停止期間
腸管出血性大腸菌感染症	病状により、医師によって感染の恐れがないと判断されるまで
コレラ	
細菌性赤痢	
腸チフス	
パラチフス	
流行性角結膜炎 (はやり目)	
急性出血性結膜炎	

○その他の感染症

感染症名	出席停止期間
溶連菌感染症	必ずしも出征停止ではない。医師が病状により必要と判断した場合のみ出席停止となる。
手足口病	
感染性胃腸炎	
マイコプラズマ感染症	
ヘルパンギーナ	
伝染性紅斑(りんご病)	
ウイルス性肝炎(A型、B・C型)	

○出席停止とはならない感染症(登校しながらの治療が可能です)

感染症名	予防方法
アタマジラミ	タオル・くしの共用をしない
伝染性軟属腫(水いぼ)	プールでのビート板・タオルの共用をしない
伝染性膿痂疹(とびひ)	水泳禁止 皮膚に触れない

※第一種感染症：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS コロナウイルス)、H5N1 鳥インフルエンザ、H7N9 鳥インフルエンザ(指定感染症)

(参考) 代表的な感染症とその特徴

感染症	特徴
新型コロナウイルス感染症	発熱、咽頭痛、咳、頭痛、下痢など消化器症状 軽微あるいは無症状のこともある
インフルエンザ	高熱、咽頭痛、悪寒、関節痛、頭痛、全身のだるさ
麻疹	発熱、咳、鼻汁、目やになどの症状が数日続いた後、高熱、全身の発疹が生じる
風疹	発熱、発疹、リンパ節の腫れと圧痛
水痘	発熱、発疹が生じ痒みを伴い、短期間で水疱 となり、痂皮 (かさぶた) 化する
咽頭結膜熱	高熱、両眼の充血、咽頭炎、咳、鼻汁 ※夏季に多く、プールで流行する
流行性角結膜炎	両眼の充血、発熱、結膜炎、目やに
結核	発熱 (微熱あるいは明らかでないこともある)、咳 (長引く咳)
髄膜炎菌性髄膜炎	発熱、頭痛、痙攣、嘔吐 ※学生寮や合宿などで感染する可能性がある 重篤かつ致死性が高い (~20%)
流行性耳下腺炎	耳下腺や顎下腺の腫れと圧痛、発熱